インターネット時代の大学ノートシステム

THInKS

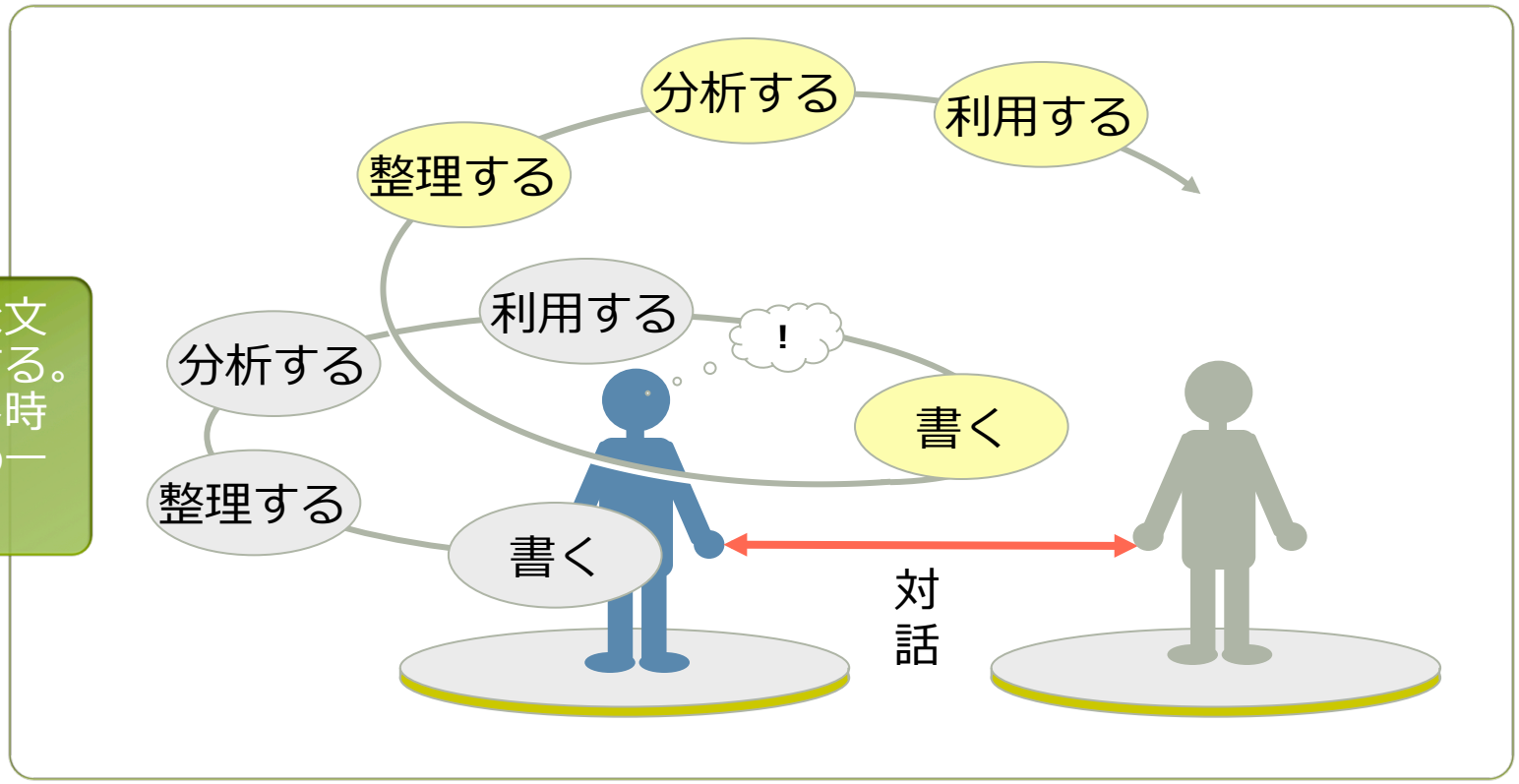
The Hyper Intelligent Knowledge System

2008/08/08　tatsumi.nagayama@mac.com

新しい学びのステップ・空間

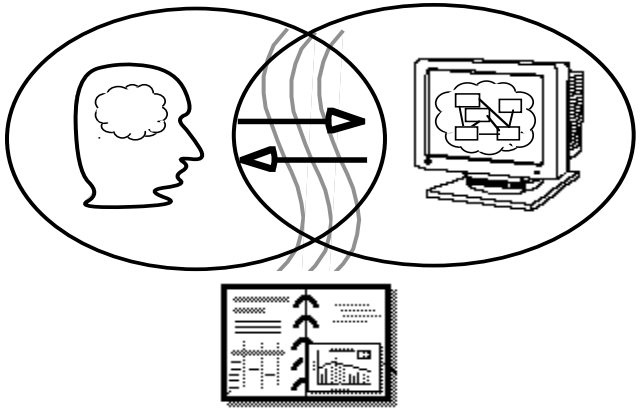
- デジタルで「書く」ことは、「自分の知識のアウトプット/表現の追求である」
- 私たちの考える「学びのステップ」とは、デジタルで「書く」というプロセスの繋がりである。

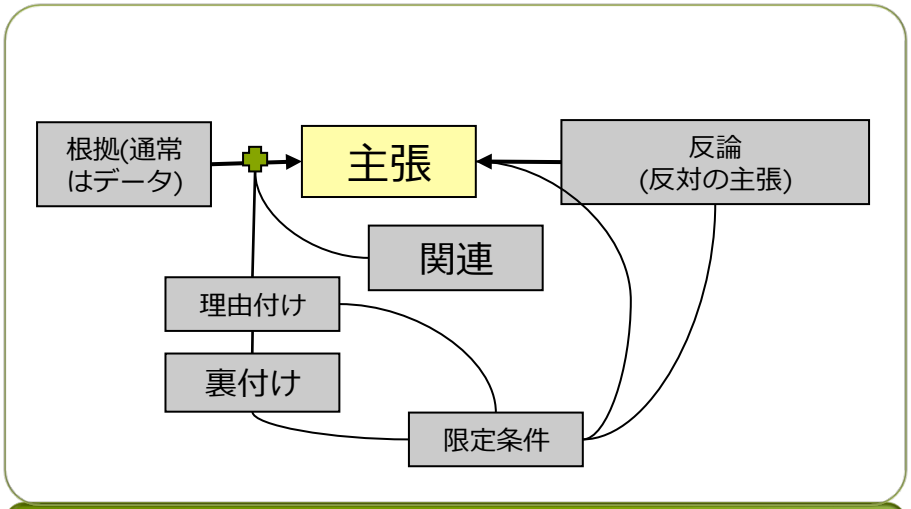
自分の知識を論理的な文章構造で明確に表記する。それがインターネット時代の情報リタラシーの一番重要な概念である。



書くための思考のエンジン/脳とコンピュータ

- 大学ノートシステム/THInKS
  - 大学生一人ひとりに提供されるTHInKSは、個人の書く力を支える、インターネットに存在するノートアプリケーションであり、知識の記述スタイルと蓄積・配信機能をもつ、生涯利用できる自分自身の脳としての存在となる





思考のエンジン

事例は、論証分析法。
他のエンジンとして、KT法、KJ法、三段論法、起承転結など、インターネット時代のダイアログに基づいて研究開発され続ける

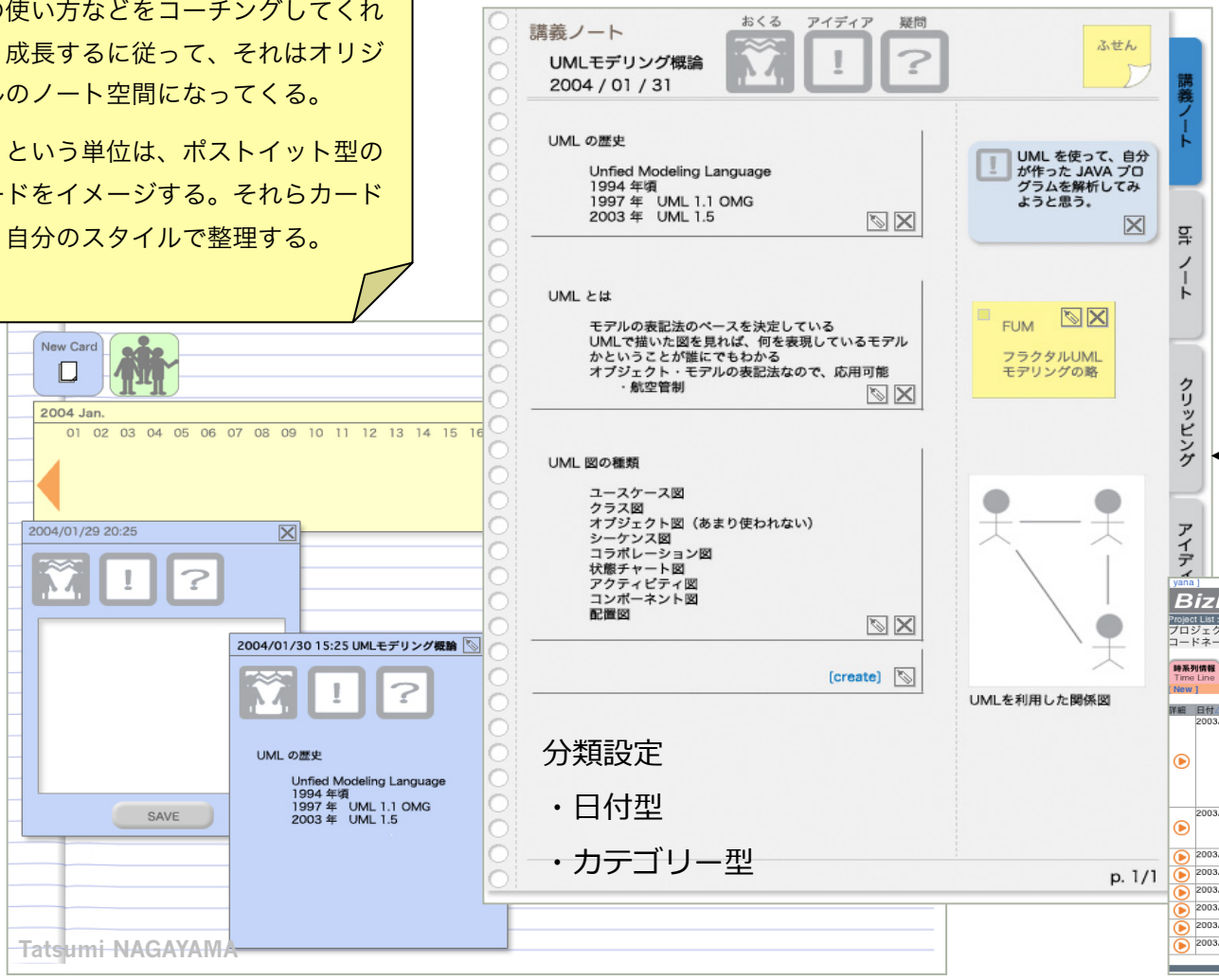
THInKSのプロトタイプ

学生、教職員は、自分の好きな電子的なノートを設計することが可能だが、大学生の思考や利用用途に対していくつかのお奨めスタイルを提供していて、その使い方などをコーチングしてくれる。成長するに従って、それはオリジナルのノート空間になってくる。

書くという単位は、ポストイット型のカードをイメージする。それらカードを、自分のスタイルで整理する。

- 青山学院大学理工学部と文学部と共同でTHInKSの研究プロジェクトを行った（2004年）
- 自分のスタイルで「書く、整理する、発想する、学ぶ」を設計す

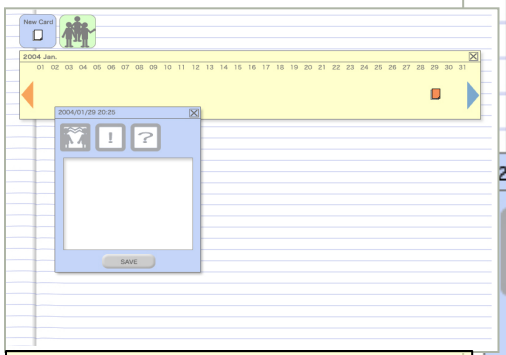
講義ノート
Bit
レポーティング
クラブ、サークル活動
趣味/知的好奇心/メモ
スケジューラ/将来の目標
収集/クリッピング
参考文献
感想/日記/出来事



これまですでに幾つかの典型的なコミュニティー型Webが研究開発されている

青山学院大学理工学部の研究室

卒業してからも社会人となってからも使える研究室ノート



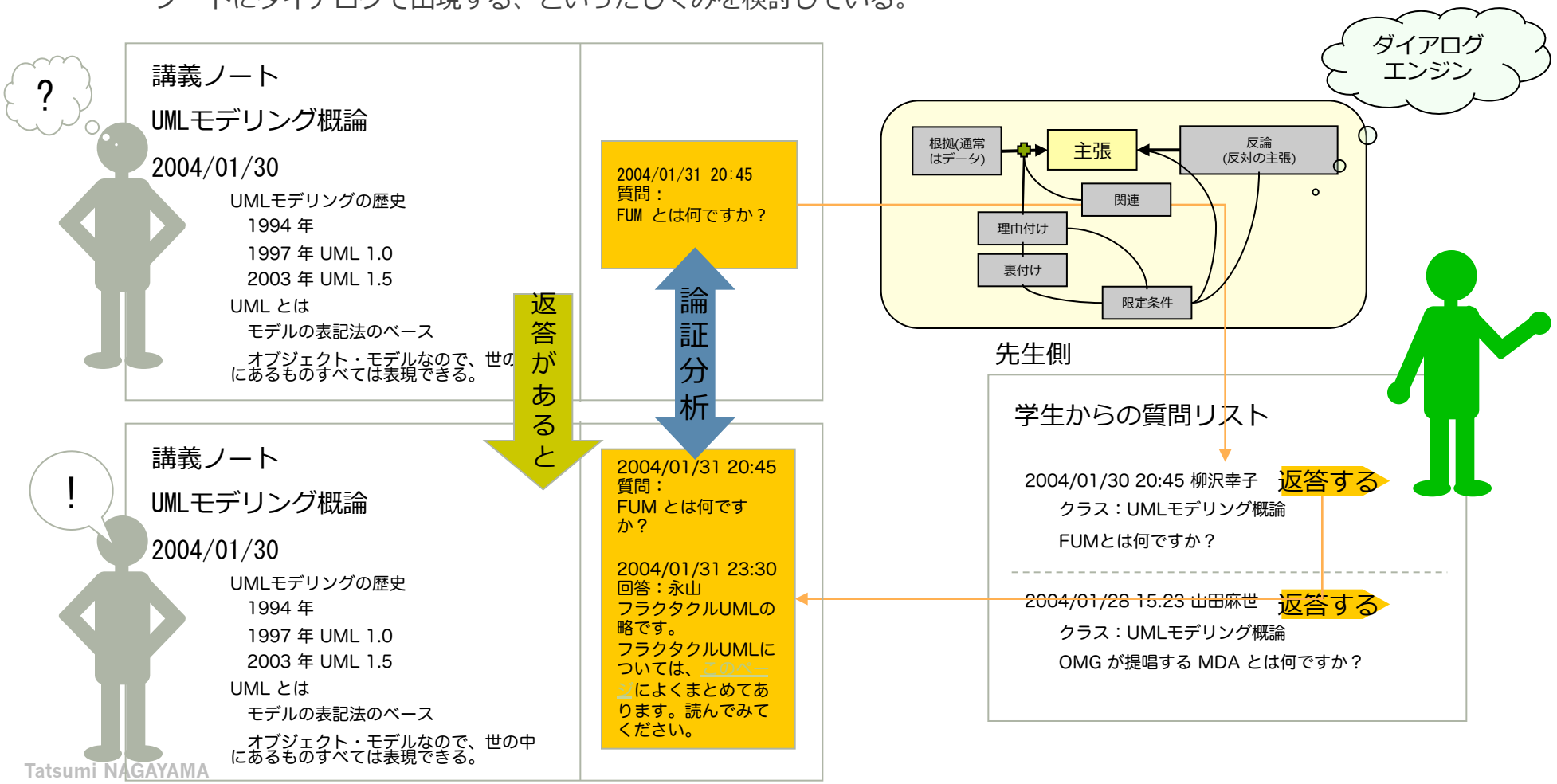
大学知の記述様式の研究

在学中のすべての記録
卒業してからも使え、大学知へのフィードバックやTHInKS上での大学院などもいずれ開催される

同窓会や、OB会の連絡網や事務局などにも機能する

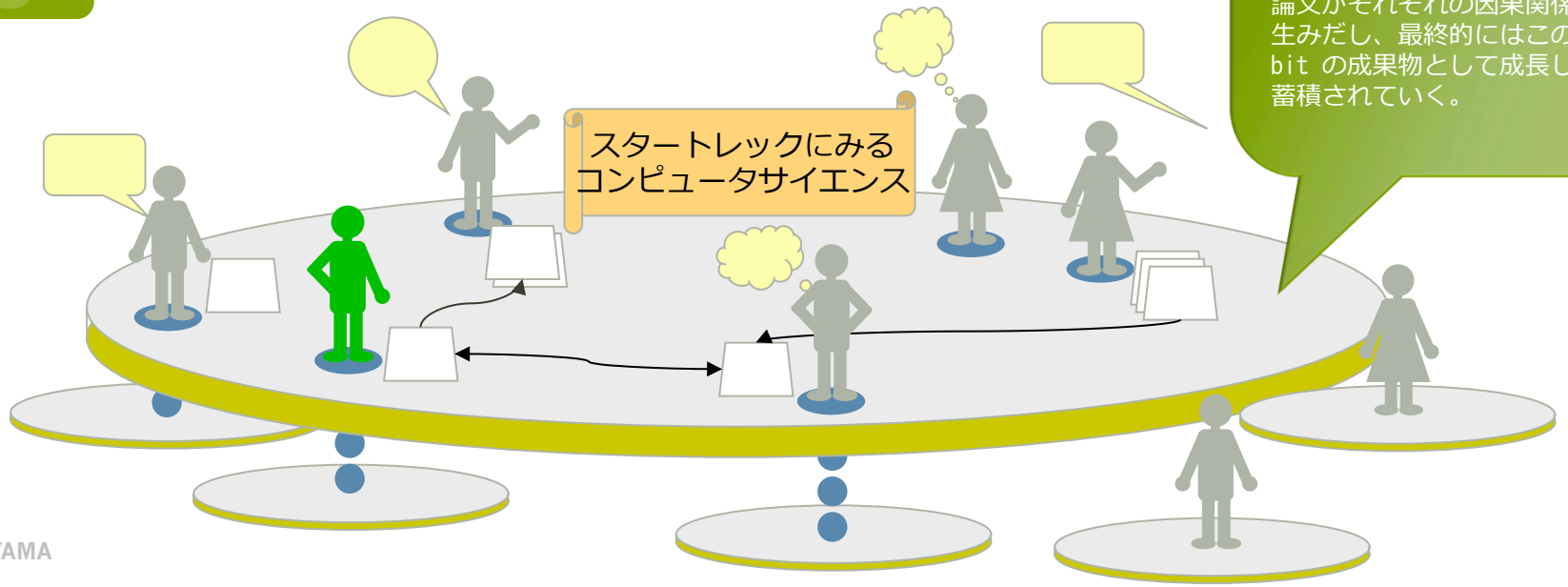
ダイアログで自分と他の人をつなぐ

- 仲間との会話は、ダイアログ形式で行う。
- たとえば、自分の講義ノートに、先生への質問を記入すると、数日後には先生からの返答が、ノートにダイアログで出現する、といったしくみを検討している。



Bitは学生主導のテーマを持った空間

- bit とは、学部・学科・学年を超えて、様々な学生が集まって、一つのテーマで議論する空間である。
- ここでは、学生が主体であるため、アドバイザーとして、適任な先生を、学生から指名することができる。
- bit は、時代の先端を走る話題に対して、先生がいないというというパラダイムを想定している。コミュニティサイトではない。他のメンバーのレポートを読み、分析し、自分の考えを文章で書かねば発言できない。
- 学部、学科、学年を超えた新しいつながりを生み出し、オンラインミニ学会を始め、実際に小さな講演会を開くといったフィジカルなイベントへの発展性を持つ。



未知のテーマについての議論

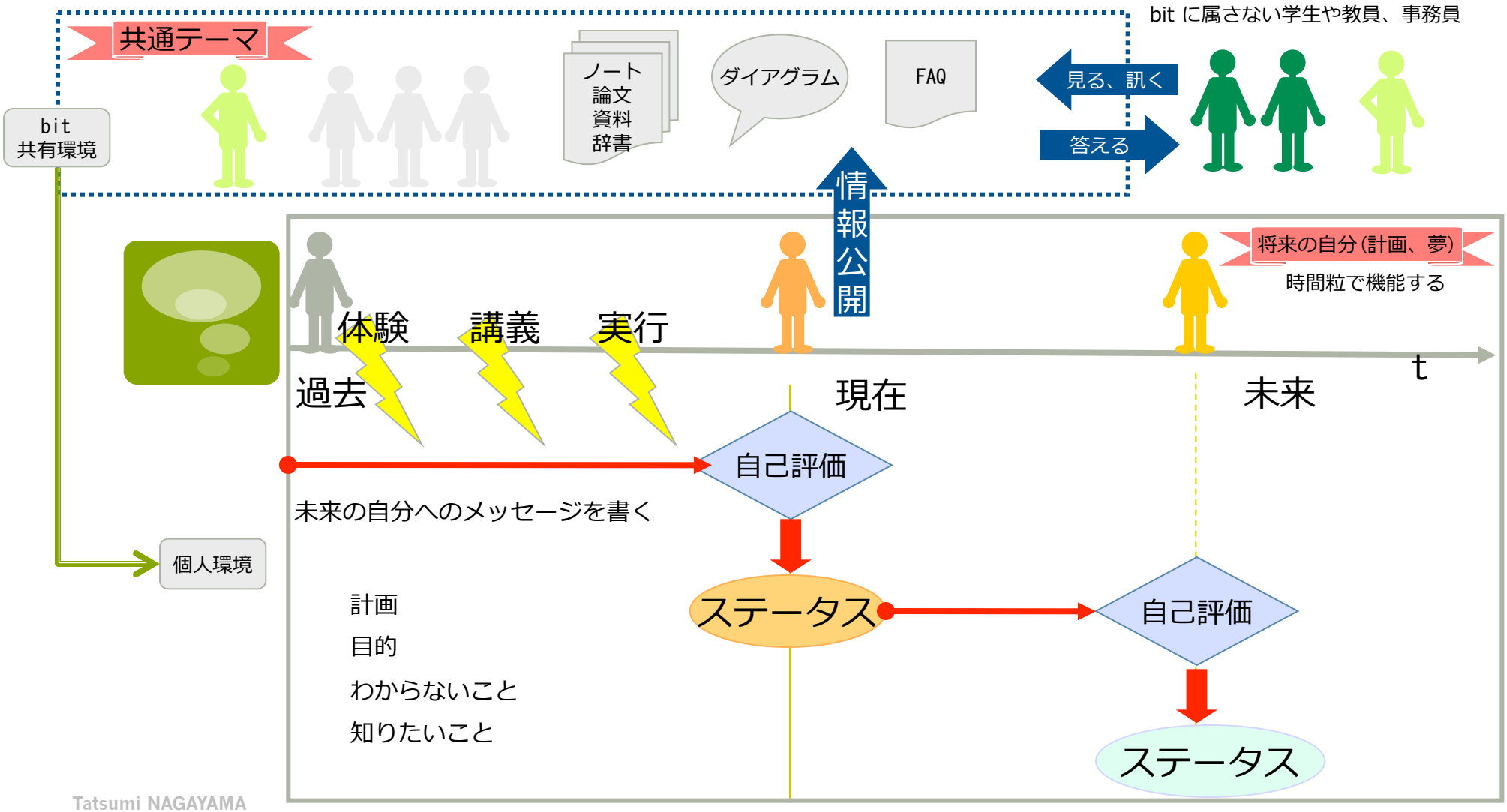
この bit では、5人の学生と一人の先生が参加して、SF スタートレックの世界のコンピュータサイエンスについて、分析、議論している。

各人は、論文形式で自分の意見を提出すると、他のメンバーがそれに対して、反論や同意といった論証分析の形式で自分の意見を表す。

そのようにしてまとめられた論文がそれぞれの因果関係を生みだし、最終的にはこの bit の成果物として成長し、蓄積されていく。

bitシステム

- 個人環境を基盤に、そこから共有環境である bit へ、自分のリソースを公開することで、情報共有を行う。



シラバスの研究

- 青山学院大学のラーニングメディア構想の研究は、シラバスの研究であった
- シラバスとは、日本と米国においてはその本質的な意味の違いはあるが、我々は、青学の教授連と議論し、大学知の公開、つまり、シラバスを世の中に公開し、開かれた大学知識の表現、伝承、を永続的に行える電子的な情報構築、提供の在り方を研究した
  - P4（THInKSのプロトタイプ）
- 東京大学工学研究科とのディスカッション
  - 東京大学研究プロジェクトである「知識の構造化」の研究メンバーとディスカッションを行い、シラバスが、固有化、孤立化する現象で、複数の知識を同時に駆動することが難しくなっている問題は、実際の問題解決の能力の妨げ、あるいは、社会の複雑化に対して大学知が有効ではなくなる将来を危惧している。

- 出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
  - シラバスとは、(Syllabus)日本では講義・授業の大まかな学習計画のこと。米国では、各回講義内容から教員連絡方法まで、個別講義の受講に関して必要な情報をすべて盛り込んだメモのこと。
  - シラバスの作成は、日本では、主として大学が導入しており、また、小・中・高でも広く作られるようになった。また、教科書発行会社も自社が発行する教科書に基づいた標準的な学習計画をシラバスとして作成し、参考としてホームページなどで公開している場合もある。
    - シラバスをを作成する利点は、
      - 学習の流れを学生が理解し、円滑に授業を受けられる
      - 指導者にとっても、学生に対して円滑に指導を進められる
    - ことなどが挙げられる。
  - 大学のシラバスの主な内容は、講義名、教員（国立大学の場合は教官）が誰であるか、取得数、講義の開かれる学期・期間、使用教材、講義の目的、講義の対象者、講義による到達目標、成績評価方法など、およそ学生が講義を受け単位を取得するにあたって必要な情報である。